

「慈善救済」から「社会事業」へ——  
社会事業活動をいち早く実践した  
労働共済会の機関誌！

# 労働共済

復刻版

全六巻  
別冊一



浄土宗労働共済会 発行 渡辺海旭 主筆

一九二五(大正四年)～一九二二(大正〇)年刊

解説 長谷川匡俊(淑徳大学学長)

土井直子(長谷川仏教文化研究所)

推薦 池田敬正・吉田久一

揃価格 九〇、〇〇〇円十税

二〇〇五年七月一括刊行

不二出版

## ◎復刻の辞

『労働共済』は浄土宗労働共済会が一九二五(大正四年)一月から一九二二(大正〇)年三月まで発行した機関誌である。

渡辺海旭会長を主筆とし、中西雄洞を編集責任者主筆として発行された本誌には、

高島米峰、矢吹慶輝、椎尾弁匡、長谷川良信(冬良)、田中弘之などの仏教者と共に、

安達憲忠、田中太郎、窪田文三などの東京市関係者や、小河滋次郎、田子二民などの社会事業家が寄稿し、

工場法や簡易保険案などの労働問題に関わる情報を提供していた。

同時に、機関誌の役割として、「労働共済会便り」「商工青年会便り」等を利用して会員に対して事業報告をしている。

さらに、「共済」の立場に立ち、労働争議や失業、米騒動などの社会問題を論じ、労働者を中心に啓発活動を実践した。

本誌によって、仏教者らが労働者に眼を向け、「協調の精神」を重視する社会事業活動の歴史的意義を検証し、

現在の社会福祉、労働関係を考える上で重要な先駆的資料と位置づけ、復刻刊行するものである。



# 幻の『労働共済』誌の復刻を喜ぶ

吉田久一（日本社会事業大学名誉教授）

『労働共済』誌の今もってその新鮮さに驚く。一九〇九（明治四二）年発行の中央誌「慈善」が一九一七年ようやく『社会と救済』と改称し、一般には「慈善」ないし「救済」と呼称されている時、早くも「労働」を名乗ったことである。この雑誌刊行の一九一五年は、「働く貧民」が近代労働者に成長しはじめた時で、行政官庁にも「細民調査」に見られるように、「働く貧民」を「細民」と見ていた時代である。本誌がその「細民」を「労働者」と捉えた新鮮さである。次に「救済」と呼称されたこの時代に、「共済」を打ち出したことである。そこには主筆渡辺海旭の世界的仏教学者としての識見と、ドイツ留学十二年の経験がうかがわれる。

## 社会福祉を拓げる『労働共済』

池田敬正（四天王寺国際佛教学大学院教授）

浄土宗労働共済会が大正年間に発行していた機関誌『労働共済』が復刻されることとなった。この労働共済会は、十一年間のドイツ留学から帰国したばかりの渡辺海旭が中心となり、仏教が説く「大慈悲」を意味する「互恵共済」の思想にもとづきながら、ドイツの「労働者の家」をモデルにしたセツルメント組織である。しかもその設立「主意書」では、「文明先進諸国」では、法律を整えて労働者の生活や衛生・教育の改善を計り、「社会福祉の増進」を実現しつつあると訴えていた。そこでは、「窮民」への個別の対応でなく、社会の多数を占める労働者の貧困問題への対応がもたられている。もはや有志の「慈善救済」ではなく、社会福祉としての国家的対応が論ぜられるようになったといえよう。こうした共済会の機関誌だけあつて、仏教的共済にもとづかせながらも、労働者の生活や失業から労働争

この雑誌の功績は「慈善救済」から、「社会事業」への先導役を果たしたことである。例えば本誌二巻一、二号の主筆渡辺による「現代感化救済事業の五大方針」で、「感情中心主義より理性中心主義へ」、「二時的断片的から科学的系統的へ」、「施与救済から共済主義へ」、「奴隷主義から人権主義へ」、「事後救済から防貧へ」もそうであろう。主筆渡辺が中心となって設立された防貧施設であった一九二二年の「浄土宗労働共済会」は、本誌の母体であるし、一九二二年渡辺が主唱して結成した「仏教社会事業研究会」は、研究会名称としての「社会事業」は最も早い。本誌の歴史的位階の高さはむろんであるが、主筆渡辺の学識と社会事業人としての識見を偲びたい。

議にかかわる問題、あるいは労働行政や社会医学・社会教育・女性問題など、国民の過半数を占める労働者の生活にかかわる社会問題を広く取り上げていた。それだけに寄稿者も多様で、矢吹慶輝や長谷川良信（冬民）など社会事業理論家をはじめ、神戸正雄・河上肇・森戸辰男・吉野作造といった学者、井上友一・田子一民・岡実などの官僚、さらには社会主義者堺利彦といった名前もみられる。このようにみると、この『労働共済』は、日本に社会福祉思想を切り開いた渡辺海旭を中心とする思想的・社会的拓げを具体的に示すものであつた。こうした『労働共済』の復刻は、二〇世紀とともにはじまった「社会の発見」が、西欧にやや遅れながらも、日本でも進みはじめたことをあきらかにする好個の史料の提供といえよう。

大谷派慈善協会刊「一九一一年〜一九一九年刊」

### 救済 全9巻・別冊1

本誌は、真宗大谷派の僧・大草慧美が設立した福祉団体「大谷派慈善協会」の機関誌である。貧困者・失業者・無宿者への救済、刑期終了者の社会復帰事業、被差別部落の改善、禁酒運動、ハンセン病患者への対策、そして児童保護事業、知的障害児教育など豊富な資料が掲載されている。これまでに近代社会福祉事業といえはキリスト教の活動が主に語られてきたが、仏教者の新たな事業活動の展開については十分に考察されていない。仏教社会福祉の原点として復刻する。

別冊Ⅱ解説（佐賀枝夏文）・総目次・索引  
菊判・上製・総4、888頁  
本体価格163,000円十税／02年1月配本完結「復刻版」  
●推薦Ⅱ長谷川匡俊・吉田久一

使命社・東京孤児院・東京育成園刊「1899年〜1912年刊」

### 東京孤児院月報 全3巻・別冊1・付録1

身よりのない子どもたちをただ「収容」するのではなく、ひとりひとりの子どもの人権を中軸に据え、「家庭」として子どもたちを受け入れ育てた東京孤児院「東京育成園」平等と人権、反戦・平和を基調としたその理念は、ようやく表面化してきた児童虐待の問題や子ども福祉一般について、今もなお大きな示唆を与える。社会福祉のみならず、児童教育・社会思想史研究としても第1級の資料である。

別冊Ⅱ解説（丹野喜久子）・総目次・索引  
付録Ⅱ東京育成園創立百周年記念「東京育成園」創立から明治大正期（分売可）5,000円  
A4判・B5判・四六判・上製・総1,842頁  
本体価格80,000円十税／03年6月刊「復刻版」  
●推薦Ⅱ吉田久一・仲村優一

原 胤昭Ⅱ主宰「1894年〜1896年刊」

### 獄事叢書 全3巻・別冊1

本誌は、出獄人更生事業で知られるキリスト教教師・原胤昭が監獄を囚人懲罰でなく囚人更生のために改良しようとして起した監獄改良運動の機関誌である。発行は北海道樺戸にある集治監内の同情会。かつて筆禍事件によって自らも下獄した経歴のある原は、同志社出身の教師たちを集め、監獄改良事業を展開した。北海道の監獄のケースを掲載し、監獄改良論を披瀝すると同時に外国の監獄事業を紹介するなど、監獄改良を志す人々に情報を発信した。

別冊Ⅱ解説（室田保夫）・総目次・索引  
A5判・上製・総1,272頁  
本体価格45,000円十税／98年9月刊「復刻版」  
●推薦Ⅱ重松一義・谷昌恒

## 社会事業史研究

年1回発行=B5判・並製

社会事業史学会編

- 第1号 特集・処遇史  
本体価格2,500円十税・73年10月刊
- 第2号 特集・施設史  
本体価格2,500円十税・74年10月刊
- 第3号 特集・地方史  
本体価格2,000円十税・75年10月刊
- 第4号 特集・第二次大戦下の社会事業  
本体価格2,000円十税・76年10月刊
- 第5号 特集・医療社会事業  
本体価格2,000円十税・77年10月刊
- 第6号 特集・社会事業従事者の歴史  
本体価格2,000円十税・78年10月刊
- 第7号 特集・貧困  
本体価格2,000円十税・79年10月刊
- 第8号 特集・社会事業における女性史  
本体価格2,300円十税・80年10月刊
- 第9号 特集・両大戦期の社会事業  
本体価格2,300円十税・81年10月刊
- 第10号 特集・地域福祉研究  
本体価格3,000円十税・82年10月刊
- 第11号 特集・絶対主義下の救済制度  
本体価格3,000円十税・83年9月刊
- 第12号 特集・留岡幸助研究  
本体価格3,000円十税・84年10月刊
- 第13号 特集・感化救済事業と地方改良  
本体価格3,000円十税・85年9月刊
- 第14号 特集・老人福祉の歴史  
本体価格3,000円十税・86年11月刊
- 第15号 特集・比較救済制度史  
本体価格3,000円十税・87年10月刊
- 第16号 特集・社会事業（福祉）理論史  
本体価格3,000円十税・88年10月刊
- 第17号 特集・障害者福祉史  
本体価格3,000円十税・89年11月刊
- 第18号 特集・戦後社会事業  
本体価格3,000円十税・90年10月刊
- 第19号 特集・児童福祉施設史の研究  
本体価格3,000円十税・91年10月刊
- 第20号 特集・救済  
本体価格3,000円十税・92年10月刊
- 第21号 特集・社会事業成立期の人物像  
本体価格3,000円十税・93年9月刊
- 第22号 特集・障害者福祉史  
本体価格3,000円十税・94年10月刊
- 第23号 特集・社会福祉における公私関係の歴史  
本体価格3,000円十税・95年10月刊
- 第24号 特集・戦時・戦後改革期の社会事業  
本体価格3,000円十税・96年12月刊
- 第25号 特集・災害と社会福祉  
本体価格3,000円十税・97年10月刊
- 第26号 特集・児童福祉の歴史  
本体価格3,000円十税・98年10月刊
- 第27号 特集・20世紀末の社会福祉  
本体価格3,000円十税・99年10月刊
- 第28号 特集・高齢者福祉の歴史  
本体価格3,000円十税・00年10月刊
- 第29号 特集・宗教活動と社会事業の成立  
本体価格3,000円十税・01年10月刊
- 第30号 特集・公的扶助の日本的形成  
本体価格3,000円十税・02年10月刊
- 第31号 特集・旧植民地時代の社会事業史  
本体価格3,000円十税・03年12月刊
- 第32号 特集・社会福祉学における歴史研究の役割  
本体価格3,000円十税・05年2月刊

関連図書

推薦します

# 労働運動と普通選挙問題

主幹 中西雄洞

従来論議され又は實行されし労働運動はたゞ問題夫自身のみであつた。随つて一般の之に對する同情又は興味と云ふものも關係者以外には大なる反響を興へなかつたのである。然るに急轉直下の労働運動に大なる力を與へたものは彼の普通選挙問題が白熱化し來れることである。労働問題夫自身は未だ何等の解決を與へられたるに非ずして、嗚々の聲を擧げたるに過ぎず、労働組合の公認、治安警察法第十七條の撤廢すら尙模糊の間に在りては何を以てか問題の解決を見む、武器を奪ひ、手足を縛しては如何なる達人と雖も能く戰ふ者勿らん、現時の労働問題は斯の如き不自由なる中に於て戦はんとするものなれば其困難と不利思ふべしである。然るに今や此問題解決の先驅として大なる力を興へんとするものは彼の普通選挙問題である。普通選挙

## 一 労働運動の曙光

労働 共 勤 勞  
が急激に 變化し進 ば迂も又 を期する は即ち勞 叫ぶも遂 の前提と



現代感化救済事業の五大方針

## 現代感化救済事業の五大方針(上)

渡邊海旭

我國に於て感化救済事業が漸次に盛大に越くの兆候あるは、社會組織の必要上、若くは國運の發展から見て、必らず然らざるべからざる趨勢から察したるのではあります。一般から考へまして、實に喜ばしき現象であること云ふて宜しいでせう。特に宗教家が現時著しく此等の事業に奮勵する様になり、東京を初めとし各府縣に宗教家經營の各種救済感化の機關を増加する傾向があるのは、風教上構な事では御座います。然し乍ら、理を極めて來ました各種の慈善事業は基礎の上に立ち、一定の方針があつて、若くは國家や社會の要求を、兎に角始めて見やうと云ふ風のものではありませんまいか。若くは又其も、時代の進歩や適當の方法手段を

に動もすれば勞して功なきものがありはしますまいか、何れに致しましても、現代の感化救済事業には如何なる主義が其根本になつて居るか、この主義から割り出された方針は果して如何なるものであるか、これは吾々が深く研究せねばならぬ所であると思ひます。

大體感化救済事業の精神には、古往今來變化のある

我國に於て感化救済事業が漸次に盛大に越くの兆候あるは、社會組織の必要上、若くは國運の發展から見て、必らず然らざるべからざる趨勢から察したるのではあります。一般から考へまして、實に喜ばしき現象であること云ふて宜しいでせう。特に宗教家が現時著しく此等の事業に奮勵する様になり、東京を初めとし各府縣に宗教家經營の各種救済感化の機關を増加する傾向があるのは、風教上構な事では御座います。然し乍ら、理を極めて來ました各種の慈善事業は基礎の上に立ち、一定の方針があつて、若くは國家や社會の要求を、兎に角始めて見やうと云ふ風のものではありませんまいか。若くは又其も、時代の進歩や適當の方法手段を

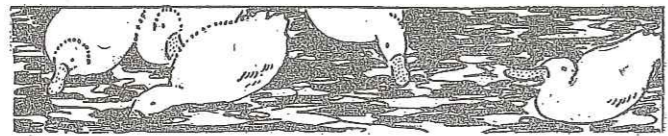
## 労働共済第六年二月號目次

社説

- 労働運動と普通選挙問題……主幹 渡邊海旭(一)
- 粗より精に量より質へ……主幹 中西雄洞(二)
- 改造の眞意……主幹 境野黄洋(三)
- 労働問題の基調……主幹 氣賀勘重(四)
- 現代の社會施設に就て……主幹 藤井滿喜太(五)
- 宇宙的共產主義……主幹 伊藤證信(六)
- 改造の責任を論ず……主幹 江木翼(七)
- 勞資の責任を論ず……主幹 熊野喜太郎(八)
- 剛毅の文化の意義……主幹 兒島獻吉郎(九)
- 労働運動の文化的意義……主幹 帆足理一郎(一〇)
- 社會主義は科學か宗教か……主幹 瀧本誠一(一一)
- 人生と藝術……主幹 井草英二(一二)

## 執筆者の抜粋(順不同)

阿部秀助	安達憲忠	伊藤証信	安藤鉄腸	伊藤門定
伊藤証信	井上正機	井上哲次郎	井上哲次郎	井草英二
引地興五郎	宇都宮鼎	宇野哲人	園田三次郎	
遠藤隆吉	横倉辰之進	岡実	加藤玄智	
加藤成俊	河上肇	河野省三		
茅原華山	丸山鶴吉	宮本貞三郎	岩井竜海	
吉野作造	境野黄洋	金子馬治	窪田文三	
熊野喜太郎	建部遜吾	古瀬安俊	戸田海市	
五来素川	弘中政男	江原素六	江上秀静	
中西雄洞	高岡隆瑞	高島平三郎	高島米峰	
高島素之	高木益太郎	桜井源太郎	小山秀弥	
床次竹次郎	田中太郎	杉江董	三輪田元道	
渡沢栄一	小河滋次郎	鹿子木員信	福原有信	
北山哲雄	堀田貢	林泰輔	森戸辰男	
深作安文	星島二郎	矢吹慶輝	米倉冷雨	
北沢新次郎	鈴木文治	有田学人	姉崎正治	
松根白山	上田良一	上田万年	清水信順	
大谷登留	朝原梅一	長谷川冬民	長谷川基	
椎尾弁匡	田子一民	田中弘之	田中穂積	
武田真量	武田慧宏	渡辺海旭		



## 普選問題の叫び

1 改造同盟主催普選問題大演説會

2 早大に於ける普通選挙問題演説會

## 街頭小言

江東外史(一〇八)

## 小品過ぎし日以下五篇

井草英二(一一八)

## 共済歌壇

井上折亭選(一二五)

## 脚本八時間労働

鬼塚豆六(一三〇)

復刻版概要

# 労働共済

全六巻・別冊一

主筆 旭海造 執筆 主

労働共済

第五卷 第五号

- 労働共済の歴史
- 労働共済の発展
- 労働共済の現状
- 労働共済の将来
- 労働共済の国際的展開
- 労働共済の政策
- 労働共済の法整備
- 労働共済の労務管理
- 労働共済の社会保険
- 労働共済の労働争議
- 労働共済の労働教育
- 労働共済の労働安全衛生
- 労働共済の労働災害
- 労働共済の労働者代表
- 労働共済の労働組合
- 労働共済の労働者の権利
- 労働共済の労働者の義務
- 労働共済の労働者の責任
- 労働共済の労働者の権利の伸張
- 労働共済の労働者の義務の履行
- 労働共済の労働者の責任の所在

新編

## 労働共済

第七卷 第一号

時	山	商	友	我	時
雨	の	1	友	國	と
象	怪	青	友	産	金
		年	友	業	
		の	友	界	
		教	友	の	
		育	友	未	
		第	友	成	
		一	友	立	
			友	法	
			友	制	
			友	度	
			友	の	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	
			友	田	
			友	中	
			友	野	
			友	上	